

子育てする二人をサポートする

—子育てから生まれる人とのつながり

松尾貴範^{たかのり}(社会福祉法人愛育会 地域生活総合支援センター)

1. はじめに

「今日を受診は、ご本人とご主人と…えっと、もう一人…3人ですか？ 不思議な感じですが(笑) お腹の子どもさんの様子、見ていきましょうねえ～」という産婦人科医と看護師との会話からスタートしたのが、出産予定の総合病院での検診の一コマです。もちろん、ご本人が阿部礼子さん、ご主人が阿部正明さん、そして、もう一人…と言われたのが支援者である私、松尾貴範(社会福祉法人愛育会 愛育会地域生活総合支援センター相談支援専門員)です。

2. 子どもが欲しい

振り返ると、「子どもが欲しい！！」という阿部夫婦のサポートは、礼子さんが基礎体温計を購入して毎日記録することから始まります。妊娠が分かってから産婦人科への定期健診に同行し、医師や看護師からの助言等を一緒に確認しました。それから、仕事で同行できなかった正明さんにエコー写真を見せながら、赤ちゃんの状態を礼子さんが説明するとき、必要に応じて補足説明をすることもありました。そんなときの二人のうれしそうな様子はとてもよく覚えています。



また、出産前に生まれてくる赤ちゃん用品を一緒に買いに行ったとき、どうしたらいいんだらう？ という不安もありつつ、喜びやワクワクした様子も忘れられません。この二人の様子に、障がいの有無なんて本当に関係ありません。

3. 多くの経験

阿部礼子さん、正明さんは、知的障がい者通勤寮を経て地域で同棲、結婚されました。このときに生まれた息子さんは、もうすぐ中学2年生になります。

出産や子育てで二人は多くのことを経験しました。町の保健師との相談（正明さん妊婦体験、保健師の自宅訪問による環境整備）、病院でのパパ・ママ教室参加、礼子さんの会社や支援機関と相談（体調・勤務管理）、出産前からヘルパー利用、乳児保育について情報収集、正明さんも産婦人科検診付き添いなど。

出産後、町内の障がい児家族会がボランティアで子育てサポートをしてくれました。具体的には、ミルクの作り方や温度調節、飲ませ方やゲップのさせ方、オムツの替え方、上手な抱っこの方法や寝かせ方、季節に合わせた衣類や暑さ・寒さ対策、沐浴の仕方、室内の衛生管理等々です。短期間のサポートでしたが、礼子さんにとっては大きな心の支えとなりました。夫婦3人生活を続けていくために、出産後3か月で乳児保育利用し、礼子さんは復職します。

保育士から離乳食や子育てのことを聞いたり、職場の人からもアドバイスをもらったり。ヘルパーや社協の金銭管理支援などを経て、家族3人の生活と二人の子育ては、必要



なときに親や兄弟、地域や職場の人、子育てする友人、息子の学校や病院の先生、いろいろな人に夫婦で相談して、試行錯誤して、決めながら、当たり前で現在進行しています。

阿部夫婦の就労や生活のことを必要に応じてサポートしていますが、子育てに関して私が気にしていることがあります。それは、子育てする二人をサポートする、ということです。支援者の子育てではありません。二人がいろいろな思いを込めて子育てしていることを尊重すべきです。

4. 最後に

二人の子育てから学ぶことがたくさんあります。「私の訪問は、今日で最後にしようと思います。礼子さんがすっかり母親になっていましたし、自信もついてきたように思ったからです。育児ってみんな違って良いと思います。礼子さんのやり方でどんどん成長していくような気がしました。貴重な体験をさせていただいてありがとうございました」最後に上記、家族会のお母さんの言葉で締め括らせていただきました。